

作り手と使い手が自由に交流することのできる野外クラフト展

フィールドオブクラフト実行委員会

活動の目的

作り手と使い手が自由に交流することのできる野外クラフト展を開催することで、手仕事の魅力を伝え継いでいくことを活動の目的としている。『掌から生まれるかたち』をテーマに、新緑の倉敷で手仕事を身近に感じながら、自然素材の持つ柔らかな感触と、繊細なかたちを感じることができるフィールドオブクラフト倉敷。多様なジャンルのクラフト作家を招きワークショップを開催することで子ども達の『作りたい』気持ちに応える。当日の運営においては学生及び一般のボランティアサポーターを募り、ワークショップ、飲食、イベントの運営を一緒に行うことで、手仕事の魅力を伝え、学生にはクリエイターとしての目的意識の醸成の一助となる。

活動の内容及び経過

5月13日・14日「フィールドオブクラフト倉敷2017」を開催。例年を上回る約2万人の来場者。

毎年5月に、全国からプロとして活躍する約90名のクラフト作家を招き、倉敷市芸文館前広場にて野外クラフト展「フィールドオブクラフト倉敷」を開催している。手仕事の魅力を伝え継ぐという目的から、倉敷市内の小学生約35,000人全員に、小学校を通じてDMの配布をおこなった。

運営は、25名の実行委員以外に、当日参加のボランティアスタッフ（一般、大学生）のサポートを受けて運営している。開催時期が5月ということもあり、熱中症対策、休憩時間、ワークショップブースにおいてはクラフト作家との交流の時間を設けるなど、人員をもって解決しなければならない課題が増えてきていた。この度の助成が採択されたことで、ボランティアスタッフ募集の重要な媒体となるWEBサイトを全面更新することができ、例年を大きく上回る人数を確保することができた。

活動の成果・効果

2017年は、例年を上回る約2万人の来場者を迎えることができた。ワークショップブースにおいては、染料を手や顔につけながら笑顔で絵付けをしたり、嬉々として土ひねりをする様子から、ものづくりの魅力を身近に感じてもらうことができたことと強く感じた。

ボランティアスタッフとして参加する大学生は、プロのクラフト作家の作品や活動、人柄に身近に触れることができる。継続的に学生ボランティアをご紹介いただいている学校では、後日、授業時間をお借りして参加学生に対するヒアリングをおこなっており、単にイベントのサポーターとして参加したとするだけでなく、学生一人ひとりがスタ



ッフとして会にかかることを通じてどのような影響を受けたか、丁寧にヒアリングすることができている。ボランティアスタッフが活動しやすい環境を整えることは、継続的なサポーターの確保にも大きく影響するが、前回のヒアリングの内容を反映して対応することができた。

今後の課題と問題点

手仕事の素晴らしさを伝えるというのは、年に1度のイベントだけでは市民に浸透するものではなく、継続的な伝えるということを繰り返し、来場者、地域に働きかけていかなければならない。いかに地域とつながり、興味をもってもらいながら継続していくか、ということが課題である。

運営の面では、来場者が年々増えているが、駐車場やトイレや日除けスペースの数が足りない状態が続いている。また突風、風雨による来場者への影響を最小限に抑えながら野外クラフト展の良さを保ちつつ、来場者が快適に会を楽しむことのできる環境づくりが必要である。

- 代表者：宮井宏 ●所在地：岡山市北区富田町
- TEL：070-5302-8207 ●URL：http://field-of-craft.com
- 設立年：2004年 ●メンバー数：25名